

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷●京丹波

広報 | 京丹波

NO.105

2014年7月17日発行

7月号

地域防災への思いを込めて





今月の表紙
8月3日の京都府消防操法大会出場をかけた京丹波町消防操法大会が6月1日、わちグラウンドで開催。出場選手らは、日ごろの訓練成果を発揮し、見事な操法を披露しました。

No.105 CONTENTS

- 2 シリーズ・環境を考える
[第3回] 節電を考える
- 6 日頃の訓練成果
京丹波町消防操法大会
- 8 観光資源がつかなく取り組み
質志鐘乳洞公園活性化への道
- 10 空から襲来した自然の驚異
ひょう被害
- 11 Dr's Message いきいき健康術
- 12 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2014
 - 森の役割を学ぶ
— 森の教室
 - 地域とのふれあいを大切に
— 竹野小学校出前発表
 - 地震観測を学ぶ
— 下山小学校防災学習
 - 今後の防災対策などを検討
— 防災パトロール
 - 振興拠点施設などを見学
— 女性の会地域めぐり
 - 体験を通して理解を深める
— 介護予防教室事前説明会
 - まちの魅力を写し出す
— 観光写真コンテスト表彰式
 - 身近な話題を語り合う
— 町長と語るつどい
 - むらおこしの活動を評価
— 自治功労者表彰
 - 懸命の水防活動を評価
— 町消防団などへ感謝状贈呈
- 16 ありがとう、メリンダ先生

シリーズ・環境を考える

[第3回] 節電を考える

夏—近年、本町でも三十五度を越える「猛暑日」が続くことがあります。今年は、「冷夏」になるという予報もされていますが、六月後半から七月初旬にかけては、三十度を越える「真夏日」が続くなど、今年も厳しい暑さを予感させます。平成二十三年三月十一日の東日本大震災以降、原子力発電所の停止などで「夏の昼間」と「冬の夕方〜夜」は、「節電」が呼びかけられています。今回は、「節電」をテーマに、夏を乗り切る方法などをご紹介します。

今年の節電目標は

例年、国が行う節電要請期間中に関西広域連合が設定する節電目標は、電力会社が家庭や工場に供給する電力量と使用見込みなどから算出されます。この目標は、安定的な電力供給に向けたさまざまな取り組みの基礎となっています。今年度、同広域連合は、昨年夏の節電実績以上の節電を呼びかけています。では、節電方法について改めて確認していきましょう。

平成26年夏の節電要請内容

昨夏実績以上の節電の実施
(昨夏の節電実績：平成22年度夏比11%減)

期間
7月1日～9月30日の平日
(8月13日～15日を除く)

時間
午前9時～午後8時

※高齢者や乳幼児、体調が悪い方の家庭では、健康上の支障をおよぼさない範囲での節電の実施

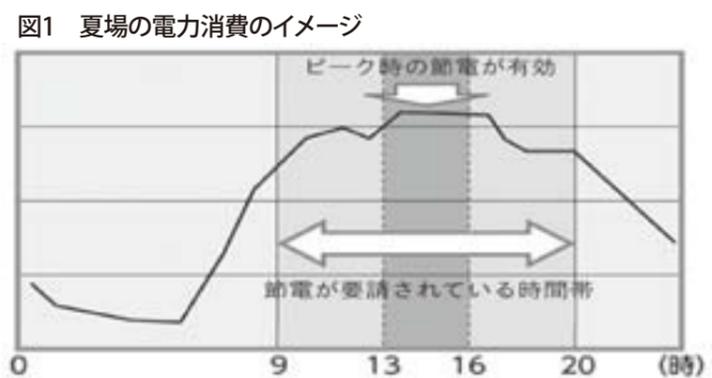


表1 主な節電方法と効果

節電方法	効果
エアコンの設定 26℃⇒28℃	10%
すだれなどで日差しを和らげる	10%
エアコンを消して扇風機を使用	50%
不要な照明を消す	5%
冷蔵庫の設定を「強」から「中」にし、扉を開ける時間や詰込みすぎを減らす	2%
テレビの省エネモード設定、画面の輝度下げ、不要時は消す	2%



エアコンの設定は28℃に。

電力が必要なときは

節電が必要な時間帯は、午前九時から午後八時までとされています。この時間帯全域で節電に組み込むことは有効なことではありませんが、比較的電力消費量が少ない時間帯まで節電を意識すると、日常生活に支障をきたしてしまうかもしれません。このことから、最も電力消費が激しい時間帯（最も電力不足に陥る可能性のある時間帯）に節電に取り組むことが効果的です。(図1)

節電のポイントとは

では、具体的な節電ポイントはどういうことかがあるのでしょうか。日常生活で可能な節電方法としては、エアコン温度の設定変更をはじめとした表1のような方法があります。これは、皆さんの家庭でも比較的簡単にできることではないでしょうか。このほか、省エネ性能の高い製品への買い替え、二重窓にするなど住宅の断熱性能の向上、太陽光発電や家庭用燃料電池の導入などの方法もあります。これらは、設置費用やその効果を十分に検討する必要があります。



瑞穂支所入り口に設置しているゴーヤとアサガオのグリーンカーテン (瑞穂支所・橋爪)

今年もグリーンカーテンが登場

節電を機に、一躍注目を集めることとなった「グリーンカーテン」。ゴーヤやアサガオ、キュウリなどのつる植物が夏の暑さを和らげてくれます。今年も町内の公共施設には、ゴーヤ苗などが植えつけられたグリーンカーテンが設置。本格的な夏を前にすくすくと成長しています。

このゴーヤ苗は、町女性の会から寄贈されたものです。女性の会では、約十年前からグリーンカーテンの普及を目指して須知高校食品科学科で栽培されたゴーヤ苗を会員や公共施設に配布しています。同会の山下典子会長は「地球温暖化の防止とともに、食材としても活用できるゴーヤのグリーンカーテンの普及を、これからも進めていきたいです」と取り組みへの思いを話します。

日差しをさえぎり、蒸散作用により周囲を冷やす効果のあるグリーンカーテン。一度試してみたいかがでしょうか。

一緒に涼みませんか

このほか、手軽に節電する方法のひとつに、「集まる」という方法があります。

表3 町内の図書室と開館状況

図書室名	開館曜日	開館時間
京丹波町中央公民館	火～土曜日	午前9時～午後5時 ※正午～1時間は休憩時間
和知ふれあいセンター		
山村開発センターみずほ	月・金曜日	午後3時～5時
	水曜日	午後2時～5時
	第2・第4土曜日	午後1時～5時
梅田公民館 (梅田振興センター)	第2・第4 火・土曜日	午後1時～5時 ※質美公民館の第2・第4火曜日は午後1時30分～5時30分
三ノ宮公民館 (三ノ宮基幹集落センター)		
質美公民館 (質美振興センター)		

健康が第一

節電とともに、例年お伝えする「夏場の健康管理」。今回は、今年四月から、国保京丹波町病院の常勤内科医師として勤務されている角谷慶人先生に、夏場に多い熱中症について聞きました。

問 東日本大震災以降、毎年電力不足の影響で、節電が要請されますが、健康面でのどのようなことに注意すればよいですか

答 夏場は熱中症が非常に多くみられます。節電も大切ですが、無理してエアコンを使わないことで体調を崩すことは避けなければなりません。

これは、日中、自宅に一人であることで、電力を消費するのではなく、皆さんが「一カ所」に集まることで、地域全体で消費する電力を減らすことができます。

この取り組みのひとつが、高齢者を対象とした「涼やかスポット」です。

この事業は、京都府が平成二十四年度から行っているもので、町内の冷房が効いた高齢者施設を「涼やかスポット」として無料で開放し、自宅での節電とともに、過度な節電による熱中症予防や

表2 町内の涼やかスポット

施設名	施設開放予定日	電話番号
高齢者サロン「ゆうゆうの家」	7月11日(金)から9月30日(火) 土日祝日と8月13日(水)から15日(金)までは休みです。期間中アイススクリームなどを無料提供。	0771-84-9333(あい愛) 0771-84-2001 (ゆうゆうの家)
高齢者サロン「クローバー・カフェ」	7月11日(金)から9月30日(火) 上記期間内で毎週月曜日を基本として、毎月8日程度開放。開放時間は、午前10時から午後3時まで。	0771-88-5014 (クローバー・サービス)
社会福祉法人山彦会 瑞穂山彦苑	7月11日(金)から9月30日(火) 特養山彦苑、グループホームわたしの親元で実施。瑞穂デイサービスセンターは日曜日以外開放。送迎ご希望の場合、要相談。7月20日(日)は夏まつりを実施。毎月末は午後から地域ボランティアによる演奏会などを実施。	0771-88-0150(山彦苑) 0771-88-0156(わたしの親元) 0771-88-0151(瑞穂デイサービスセンター)
社会福祉法人山彦会 金木屋	7月11日(金)から9月30日(火) 小規模特養金木屋で実施します。京丹波デイサービスセンターは日曜日以外開放します。送迎ご希望の場合、要相談。7月20日(日)は夏まつりを実施。毎月末は午後から地域ボランティアによる演奏会などを実施。	0771-88-0001(金木屋) 0771-88-0294(京丹波デイサービスセンター)



熱中症対策などについて話す角谷先生 (国保京丹波町病院・和田)

問 どのような方が特に注意が必要ですか

答 農作業や競技スポーツなど、屋外で長時間過ごす方は注意が必要です。屋内においても、高温多湿な環境では熱中症の危険が高まります。特に高齢者の方々は、発汗が少なくなったり、暑さなどの渴きを感じにくくなったりするなどで、熱中症を起こしやすいと考えられます。

問 注意すべき点はどのようなことですか

答 適切な温度管理とこまめな水分摂取が大切です。高齢者の方々においては、暑さを感じなくても扇風機やエアコンを使用することや、のどの渴きを感じなくてもこまめに水分を摂取することが重要です。また、高齢者のみの世帯では、周りの人が気にかけてあげることも熱中症予防につながります。

問 暑い夏を元気にすごすためのワンポイントアドバイスを教えてください

答 アイススクリームやかき氷など冷たい食べ物ばかり摂取するのは望ましくありません。それよりも夏野菜をしっかりとって、体のなかにこ

地域交流の場とするものです。

本年度は、町内で四カ所が「涼やかスポット」を実施しています。(表2)

夏の暑い一日を、涼やかスポットで楽しく過ごしてみてください。

一味違った涼み方も

「涼やかスポット」は、高齢者を対象とした取り組みであり、集まることで交流を深めながら節電できるものですが、他の世代の方の節電方法も必要となります。

世代を問わず涼める方法のひとつが、「図書室」を活用した節電ではないでしょうか。

現在、町内には、六カ所の図書室があります。(表3)

各図書室では、それぞれ豊富な蔵書の中から、お好みの本が選べます。

図書室でも読書が可能なため、夏場の日中は、快適な環境で読書が楽しめます。真夏のひととき、図書室で節電してみるのもいいかもしれません。※利用時は、マナーを守り、他の利用者の迷惑にならないようお願いします。



空調の整った町中央公民館図書室(蒲生)

もった熱を冷ますことを心がけましょう。

元気に夏を乗り切りましょう

今回は、「節電」をテーマに、一般的な節電方法から、少し変わった節電方法、グリーンカーテンの取り組みと夏場の健康対策についてお伝えしました。

今年、東日本大震災以降四回目の夏となります。この夏、関西電力管内では初めて「原発が動かない夏」を迎えます。昨年と同程度の節電が行われれば電力不足には陥らない予定ですが、稼働中の火力発電所が故障などで停止すれば、いつ電力が不足するかわかりません。

日頃から節電することは、余計な化石燃料の使用を控え、環境を守ることにつながります。昨年より少しがんばって節電に取り組んでみてはいかがでしょうか。

お知らせ

今年の夏は、電力の安定供給に最低限必要な予備率3%以上を確保できる見通しですが、それには昨年並みの節電に取り組んでいただくことが求められています。電力需給の逼迫が予想される場合は、京都府からの連絡に基づき臨時的告知放送を行いますので、ご理解とご協力をお願いします。



一番員が「伝達おわり」を告げる

丹波支団第四分団



操法披露の前に、緊張した表情の要員



操法を終了した要員ら



吸管を伸ばす二番員と三番員



二線めのホースを延長する二番員と三番員

瑞穂支団第一分団



火点向けホースを搬送する一番員



「放水やめ」を伝える三番員



火点に向け放水姿勢をとる二番員



とび口を持ち、走り出す二番員

瑞穂支団第一分団



ホースを持ち、火点を目指す指揮者

丹波支団第一分団



放水に向け吸管を伸ばす三番員と四番員



筒先員を交代する指揮者と一番員



ホースの延長を終え、構える要員



二番員の「放水始め」の音が響く



日頃の訓練成果

京丹波町 消防操法大会

六月一日、わちグラウンドにおいて、京丹波町消防操法大会を開催しました。

この操法大会は「自分たちのまちは、自分たちで守る」という強い郷土愛護の精神のもとで活動する消防団員が、日ごろの訓練成果を発揮する機会として開催しているものです。

四回目の開催となる今回の大会には、ポンプ車操法の部に三チーム、小型ポンプ操法の部に十六チームが参加。約六百人の団員と家族などが見守る中、訓練で培った力を出し切りました。

各チームの操法が披露されると、消防団員や見学に訪れた人々からは、大きな拍手が送られていました。

大会結果は次のとおりです。

【ポンプ車操法の部】

- 最優秀賞 瑞穂支団第一分団
- 優秀賞 丹波支団第二分団

【小型ポンプ操法の部】

- 最優秀賞 丹波支団第四分団
- 優秀賞 瑞穂支団第一分団
- 瑞穂支団第二分団

【特別賞】

- 団長奨励賞 和知支団第二分団

京都府消防操法大会に向け 出場操法要員の結団式を開催

町では、六月十七日に町中央公民館で八月三日に丹波自然運動公園で開催される京都府消防操法大会に出場する操法要員の結団式を開催。式では、出場する二チームの要員に対し、梅原好範団長から任命書が交付されました。

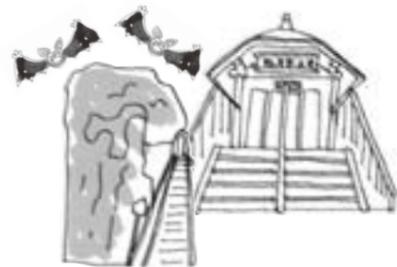
出場する操法要員を代表し、ポンプ者操法の部に指揮者として出場する瑞穂支団第一分団瑞穂第二本部の藤原功さんは「わたしたちは、第二十三回京都府消防操法大会における操法要員として選ばれました。八月三日まで一カ月あまりの間、栄えある京丹波町消防団の代表としての操法が披露できますよう、精一杯がんばります」と出場にかける決意を述べました。

出場要員は、大会での入賞を目指して練習に取り組んでいます。当日は、多くの皆さんの応援をお願いします。



任命書を受け取る操法要員(町中央公民館・蒲生)

質志鐘乳洞公園 活性化への道



京丹波町質志にある京都府唯一の鍾乳洞「質志鐘乳洞」。洞内は、年間を通して十二度前後と、夏場のクールスポットとして活用することもできます。この鍾乳洞がある質志鐘乳洞公園の活性化を目指す、須知高校生の取り組みの様子をお伝えします。



花苗を植える生徒



シイタケの原木を積み上げる生徒

アイデアを出し合う

ら始まりました。

まず、現在の鍾乳洞公園を知るため、同校食品科学科公園管理コースの二・三年生が同年七月に「京都府下唯一の鍾乳洞」という観光資源を持つこの公園を訪問。見学後には、今後の取り組みについて検討しました。

花のある公園へ

に、花壇づくりを提案。平成二十四年から毎年、花を植えたプランターを並

生徒たちは、自然豊かなこの公園をさらに魅力ある公園にするため

べたり、公園内の一角に花壇づくりを行ってきました。

今年も継続して花を植えることにした生徒たちは、六月九日に鍾乳洞公園を訪問。公園内で作業を行いました。

植え付けに際し、生徒たちは花の種類を検討しました。同公園は、日中の日の差し込みが弱く、それが夏場の涼しさに貢献していますが、花の生育には問題がありました。

このことから、今年は、比較の日陰でも生育が可能なインパチエンスを選択。同校で育てた花苗を一株ずついねいに植え付けました。参加した大杉剣右さんは「自然が多くみんなが集まる場としては花がないと思ひ、きれいにしたいと思ひました。(インパチエンスはこの土地に合う花だと思ひて植えました)」と取り組んだ経緯を話していました。



鍾乳洞へ続く道沿いに植えつけられたインパチエンス

また、生徒たちは、花苗植えとともに、シイタケの原木の搬入も行いました。この原木は、町内にある府立林業大

学校が実習で伐採したクヌギを用い、生徒たちが菌打ちを行ったものです。生徒たちは「公園でバーベキューをするときに、使ってもらいたいと思ひて置きました」と話し、公園を訪れる方へのおもてなしとなる取り組みを行いました。

情報発信にも協力

後と伸び悩む質志鐘乳洞公園(表1)。

公園での取り組みとともに、情報発信

すばらしい観光資源を持ちながらも年間来場者数が一万七千人前



チケットを手渡す須知高校生(丹波マース・須知)

手段として、公園をPRするチラシの見直しも行いました。

これまで三つ折であったものを折らないものに変更。チラシを設置する場所に合わせ、紙面上部に施設の名称を大きく配置するとともに、園内の様子がわかりやすいようなレイアウトに変更しました。

また、町内の観光情報が集まる丹波マース内の京丹波町観光協会でのチケット販売を提案。生徒たちもチケットの販売実習を行い、集客に一役買いました。

若い力で魅力ある公園へ

者数も増えた質志鐘乳洞公園。同公園

を管理する協会の北野秀治会長は「これまでいろいろなことに取り組んできて、自分たちでは、なかなか新しいアイデアは出てきません。若い人たちが良いアイデアを出してくれることは大変うれしです。お客さんにも好評です」と、須知高校生の協力が感謝していました。

また、公園では、生徒たちのアイデアにより管理棟にテレビを設置。足の不自由な方が、鍾乳洞に入ることができないと

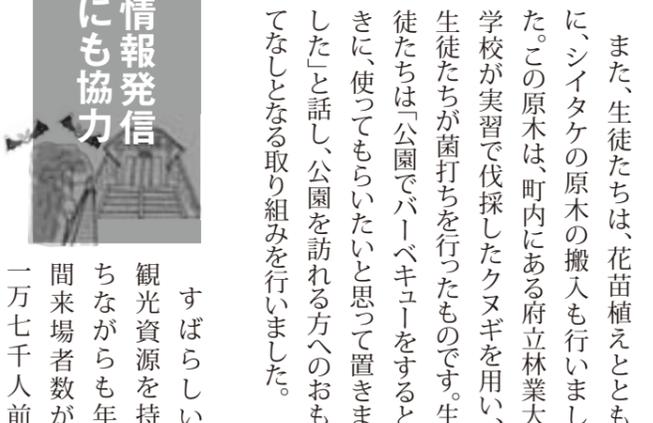
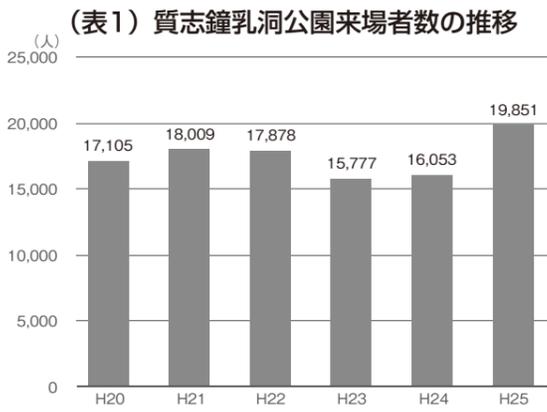


新旧のチラシを広げて話す北野さん

きに洞内の様子を見てもらえるようにしました。ひとつずつ改善することで、魅力を増しつつある質志鐘乳洞公園。暑い夏の日を訪れてみるのもいいかもしれません。



映像を確認する北野さん



新しくなったチラシ(左)。これまでのチラシ(右)よりも見所をわかりやすく掲載している

空から襲来した自然の驚異

近年、日本各地では、大地震や集中豪雨など、経験したことのないような自然現象が発生しています。本町においても、昨年九月に発生した台風十八号災害は記憶に新しいところです。このたび六月十二日に発生した局地的な豪雨と「ひょう」被害についてお知らせします。

大きな被害をもたらす「ひょう」

六月十二日午後四時三十分ごろ、町内では、一帯が夜のように暗くなり、強い雨が降り出しました。約一時間程度の雨でしたが、町内の観測点では、最大四十九ミリ(井脇観測点)の雨量を観測しました。

この間、京丹波町内では、大きいものでゴルフボール大くらいの大量の「ひょう」が降りました。このひょうは、家屋、車両、農作物などに甚大な被害をもたらしました。(表1)

農作物への影響は甚大

エンドウマメや黒大豆、ホウレンソウなどを栽培する野村諭司さん(保井谷)も今回のひょう被害を受けた二人です。

野村さんは、自らのビニールハウス横にあるプレハブにいたときにひょうの被害にあいました。「最初は何事かと思

ました。外を見ると少し先にあるハウスがかすむほどひょうが降っていました」と野村さんは言います。

ひょうがおさまった野村さんの畑は、ビニールハウスには穴があき、植えつけた黒大豆の苗は全滅、近くにあった育苗箱は割れるという有り様でした。

少しずつ復旧作業をする野村さん。「野菜が不足しないように、計画的な出荷に向けて、復旧をすすめていきます」と、ビニールハウスの張り替え作業をしながら話していました。

(表1)ひょうによる町内の被害状況

項目	件数
家屋など(窓ガラス)	27戸
家屋など(トタン屋根など)	188戸
自家用車などの車両	109台
公共施設(施設、街頭、車など)	32件
農業施設(ビニールハウス)	67棟
農業施設(その他)	4棟
農作物	2.418ha

(注)平成26年6月27日現在で町が把握しているもの。

ひょう被害



町内に降りそそいだひょう。これは降ってから約1時間後のもの(提供・谷文絵さん(賞美))



屋外にあった育苗箱。ひょうにあたり割れてしまった(保井谷)



ビニールハウスの張り替え作業をする野村さん(保井谷)



ひょうで割れた窓ガラス(下山)



ひょうの被害をうけたエンドウ

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。

今回の担当は、国保京丹波町病院の角谷慶人先生。さまざまな原因で発症し、発症後は日ごろの健康管理が大切な心不全に関する話です。

●心不全とは？

心不全とは「心臓のポンプとしての機能が低下した状態」のことをいいます。高血圧、心筋梗塞、弁膜症、不整脈など、さまざまな原因で心臓の機能が低下すると、全身に十分な血液(酸素)を送り出せず、内臓に水分がたまり、「息苦しさ」や「むくみ」といった症状が現れます。

●心不全を悪化させる要因は？

服薬：通院の中断、塩分・水分のとりすぎ、高血圧の悪化、過労、風邪などの感染症は、心不全を悪化させる原因の代表的なものです。

●心不全の内服治療薬は？

・ACE阻害薬/ARB：血圧の薬でもありますが、心臓の負担を軽くする作用や有害なホルモンを抑える作用を持っています。血圧が高くならない方にも処方されます。

・β遮断薬：血圧の薬でもありますが、収縮力が低下した心臓をリラックスさせて心拍数を減らし、ポンプ機能を高める働きがあります。少ない量から始めて、徐々に量を増やします。

・利尿薬：体の余分な水分を減らします。肺にたまった水分を取り除いて呼吸を楽にし、顔や足のむくみをとります。腎臓に負担がかかることがあります。

●心不全の方が気をつけることは？

自宅で血圧や体重を毎日測定し、「体調のセルフチェック」をしましょう。体重が数日で二〜三キロ以上増加したり、顔や足のむくみが出たり、息苦しさが増えたりする場合は、早めに医師に相談しましょう。その他、禁煙、節酒、適度な有酸素運動が推奨されています。

●心不全治療の目標とは？

症状をなるべく軽くし、生活の質を改善し、より長く健康状態を保つことです。そのためには、定期的な通院、服薬、そして患者さん自身の健康管理が重要です。



内科医師 角谷 慶人 先生(国保京丹波町病院)

お知らせ

京丹波町病院では、平成二十六年四月から土曜日の内科・小児科の午前診療を、毎週行っています。

☎86-0220

Dr's Message

いきいき健康術 第83回

『心不全について』

森の役割を学ぶ

■森の教室

丹波ひかり小学校で六月十二日、森林のはたらきなどを学ぶ森の教室が行われました。教室では同校の五年生が、独立行政法人森林総合研究所と京丹波森林組合の職員から、森林が担う役割や、森で働く人の仕事、身近にある樹木について学びました。

学校周辺で行われた樹木に関する学習では、同研究所の職員

が、葉の形や幹の皮などから樹木の種類を判断する方法などを説明すると、生徒たちは、興味津々な様子で聞いていました。

教室に参加した稲葉南美さんは、「家庭で出す二酸化炭素を吸収する木の数を聞いてびっくりしました。難しい話もあつたけど、いろいろな木のことを教えてもらった楽しかったです」と、森が果たしている役割に驚いていました。

この教室は、平成二十三年十一月九日に実勢地内で行われた独



木の名前や見分け方を聞く生徒(丹波ひかり小・曾根)

立行政法人森林総合研究所主催の「みんなで創る水源の森」植樹祭に同校生徒が参加したことを契機として開催されました。

地域とのふれあいを大切に

■竹野小学校出前発表

竹野活性化委員会(中西和之代表)が毎週木曜日に京都・丹波食彩の工房で行う竹野サロンで六月十九日、竹野小学校四年生による出前発表が行われました。

サロンを訪れた生徒たちは、詩を順番に読む群読などを披露したあと、サロンを訪れた人たちと一緒に、茶摘みの歌に合わせた手遊びを楽しみました。

普段サロンのスタッフとして活動し、この日は参加者として来ていた船越のな江さん(水戸)は「参加できてよかったです。近所の子どもの発表を見ることができたのでよい機会になりました」と、生徒たちとともに手遊びを楽しんでいました。

この出前発表は、地域ぐるみで支えてもらっている地元の人たちに喜んでもらえることをしようと企画。今後はほかの学年でも実施する予定です。



手遊びを楽しむ小学生と地域の人たち(京都・丹波食彩の工房・高岡)

今後の防災対策などを検討

■防災パトロール

災害時に危険が想定される箇所などを視察し対策を検討する防災パトロールを六月二十四日に実施しました。

パトロールには、町および京都府のほか、災害時に連携して対応する町消防団や園部消防署、南丹警察署が参加。昨年の台風十八号により民家などが大きな被害を被った坂原および中地区と、

公共施設が床下浸水した和田地区を視察しました。

和田地区の視察では、氾濫した高屋川と被害を受けた京丹波町病院や町情報センター周辺を視察。町の担当者から当時の様子を聞きながら状況を確認しました。

パトロール後には、町中央公民館で今後の防災対策を検討。関係機関の連絡調整を目的とした職員の派遣体制や、河川および



災害の爪あとが残る高屋川を視察する関係者ら(和田)

び周辺の整備に関して意見交換が行われました。

振興拠点施設などを見学

■女性の会地域めぐり

町女性の会会員による「地域めぐり」が六月二十九日に行われ、約五十人の参加者が、道の駅「京丹波 味夢の里」などの見学と陶芸体験を行いました。

「京丹波 味夢の里」建設現場では、町担当者が施設の概要などを説明。参加者からは「パーキングエリアには、上下線どちらからも入れるのですか」などの質問が出されていました。

また、大朴地内では大朴川橋

(仮称)を橋上から見学。参加者は、橋の説明を聞きながら、眼下に広がる瑞穂地域を見渡していました。



道の駅の概要などを聞く参加者(曾根)



建設が進む道の駅予定地(曾根)

地震観測を学ぶ

■下山小学校防災学習

校内に設置された地震計を通して、地震発生の仕組みなどを学ぶ防災学習が六月六日、下山小学校で六年生を対象に行われました。

「観測サポーターになろう」をテーマに行われた学習では、平成二十一年に京都大学防災研究所により設置された小型地震計について、同大学大学院情報学研究所の岩堀卓哉さんと中西千尋さんが説明。生徒たちは、地震計がある机を少しさわるだけでも反応する地震計の性能に驚いていました。

学習では、実際に校内に設置された地震計も確認。生徒らは、岩堀さんらの指導により、地震計が記録したデータが保存されているメモリーカードと電池の交換を行いました。

今後は、継続的にカードの交換を行うとともに、授業を通して小学校がある下山地域の大地などについて学習する予定です。



地震計を確認する生徒たち(下山小・下山)

体験を通して理解を深める

■介護予防教室事前説明会

地域で介護予防教室を開催するための事前説明会、脳トレ・筋トレ事前説明会を六月二十五日に町中央公民館で開催。町内三十四地域のサロン関係者など七十八人が体験を通して教室の内容を学びました。

説明会では、各トレーニングを指導する講師がそれぞれの講座内容を説明。このうち、筋トレに関する講演では、NPO法人元気アップAGEプロジェクトの横山慶一さんが、音楽に合わせた体操などを紹介。参加者は、横山さんの動きに合わせて楽しく講座内容を体験していました。

この教室は、申し込みのあった地域を対象に、十一月〜二月にかけて週一回の開催を予定しています。



音楽に合わせて体を動かす参加者(町中央公民館・蒲生)

まちの魅力を書し出す

■観光写真コンテスト表彰式

「わたしが見つけた京丹波の観光資源」をテーマに昨年度行われた、第二回観光写真コンテスト(町観光協会主催)の表彰式が、六月二十五日に丹波マーケースで行われました。

今回のコンテストには、一般および携帯電話カメラの部を合わせて百十二作品が出展。その中から、各部門の特選作品などが選ばれました。

一般の部特選に選ばれた「野菜まつり寸景」を撮影した王鞍謙一さんは、「知り合いから聞いてこのみこしの撮影に行きましたが、すばらしいみこしでした。アングル設



表彰状を受け取る王鞍さん(写真左)(丹波マーケース・須知)



一般の部【特選・京丹波町長賞】「野菜まつり寸景」



携帯電話カメラの部【特選・京丹波町観光協会賞】「出初め」

定などが大変で、撮影に四時間くらいかかりました」と、特選作品が誕生するまでの苦労を話していました。

受賞作品と受賞者は、次のとおりです。(敬称略)

■一般の部

- 【特選・京丹波町長賞】
「野菜まつり寸景」
王鞍謙一(京都市)
- 【準特選・京丹波町教育賞】
「秋を迎えて」
拝師信治(京都市)
- 【準特選・京丹波町商工会賞】
「御神木」
広瀬 誠(角)

【準特選・京都府観光連盟会長賞】
「ファンタジー」
松下 啓(向日市)

【準特選・京都新聞社賞】
「未来明るい林業大学」
浅野三雄(橋爪)

【入選】
「ママと一緒に」
海道ただかず(亀岡市)

「京丹波の早乙女たち」
森田典樹(福知山市)

「浮かぶ樹林(築山忠則(小畑))

■携帯電話カメラの部

- 【特選・京丹波町観光協会賞】
「出初め」船越雅章(須知)
- 【入選】
「和知川の夏(永井千鶴(中))
「城跡から見下ろす故郷」
野村幸司(保井谷)

身近な話題を語り合う

■町長と語るつどい

身近な話題や町政への要望などを語り合う町長と語るつどいが、六月二十四日の下山集会所を皮切りに、町内二十二会場で始まりました。

第一回目となる同集会所のつどいには、地元元下山区の住民など三十九人が参加。新たな取り組みである映像による平成二十六年度の事業と予算の説明後、懇談が行われました。

参加者からは、六月十二日に町内で起こった「ひょう」被害への迅速な対応に対するお礼や、友好町交流に関する質問などが出されました。

町長と語るつどいは、九月二日まで開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



参加者からの質問に答える寺尾町長(下山集会所・下山)

むらおこしの活動を評価

■自治功労者表彰

質美地域振興会がこのほど、京都府の平成二十六年地域自治功労者表彰(地域力再生功労団体)を受賞。同会の高橋弘会長と大西好美副会長が六月二十七日に寺尾豊爾町長に報告に訪れました。

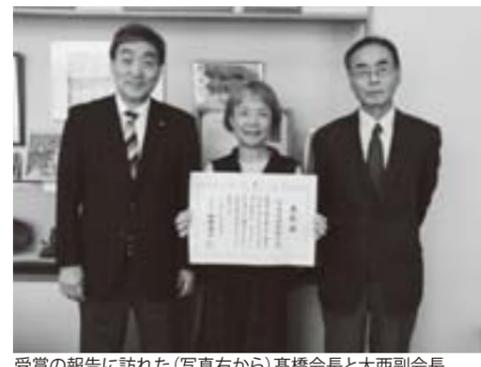
この表彰は、京都府が毎年、同府の開庁を記念して行う式典で

表彰しているものです。同振興会は、平成二十一年四月の設立後、地域活性化を目指して、交流イベントの開催や環境に関する取り組みを積極的に実施し、また、平成二十四年からは、閉校となった旧質美小学校を活用し、サークル活動や、住民団体による軽食の提供などを行い、地域の交流拠点化を進めてきました。

今回の受賞を受け、高橋会長

は「皆さんの支援があったおかげです。(旧小学校は、)振興会の活動のひとつなので、施設を拠点として、今後も地域の振興に向けてがんばります」と、活動への思いを話していました。

また、今回の表彰では、本町および亀岡市、南丹市をエリアとする京丹波地域の情報発信による観光振興に取り組みする京来て・観て丹波の会(寺井昌夫会長)も受賞しました。



受賞の報告に訪れた(写真右から)高橋会長と大西副会長(役場町長室・蒲生)

懸命の水防活動を評価

■町消防団などへ感謝状贈呈

本町消防団を含む京都府内の十六の消防団および水防団に対し、山田啓二京都府知事が感謝状を贈呈。五月三十日に京都府公館(京都市)で贈呈式が行われました。

この感謝状は、昨年九月十五日から十六日にかけて町内などに大きな被害をもたらした台風十八号災害での水防活動が評価されたことによるもの。贈呈式には、町消防団の梅原好範団長が出席し

ました。

感謝状を受け梅原団長は「発災当時、深夜のどしゃ降りの中で懸命な活動をされた町職員や各区役員、消防団員の皆さまの代理として感謝状を賜りました。日ごろから温かいご理解のもと団員をお支えいただきご家族の皆さまに心から感謝し、今後も安全・安心なまちづくりに向け団員の総力を挙げ取り組んでまいります」と、今後の消防団活動への思いを話していました。



感謝状を受け取る梅原団長(京都府公館・京都市)

わたしたちの町

人口	15,709(-41)
男	7,410(-15)
女	8,299(-26)
世帯数	6,428(-13)
7月1日現在/()は前月比	

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	9,158,814円
復興支援募金	5,879,153円

*平成26年6月30日現在



ありがとう、 メリンダ先生



平成21年7月に来日し、本町で5年間ALT(外国語指導助手)として勤務された、メリンダ・アンタラミアンさん。このたび、7月26日で任期が終わり、本町を離られることになりました。

本町での5年間の思い出を振り返ってつづったメリンダ先生からの手紙を紹介します。

京丹波町での5年間はたくさんの思い出でいっぱいですが、5年間も京丹波町にいたことが信じられない気持ちです。みなさんと親しくなり、授業以外にも多くの時間を共有できた毎日でした。小学校では休み時間も児童のみなさんと一緒に過ごしました。

京丹波町のみなさんが温かく迎えてくださったおかげで、今では京丹波町が本当のふるさとのように感じています。友人などに「ふるさと」のことを聞かれたときも、京丹波町のことが先に思い浮かぶくらいです。

そして私の中で一番大切な思い出は、生徒が私に言ってくれた3つの言葉です。

一つめは、授業の時間割の変更で英語の授業が入ったとわかり、生徒が飛び上がって喜んだときの「ありがとう神様!ありがとう!」という言葉です。私は驚きましたが、同時にうれしきでいっぱいでした。

二つめは、小学校で授業をしていたときの言葉です。英語の授業で活動をしている途中で授業時間が終わりそうとき、児童のみなさんが「休み時間がなくなっても、続きをやりたい!」と言ってくれたことです。

三つめは、中学生の生徒と夏休みにたくさん練習した、スピーチコンテストでの言葉です。ある生徒がスピーチコンテストのあと、「とても緊張して不安だったけれど、笑顔で見守っていてくれるメリンダ先生を見つけた瞬間、落ち着いて、自信を持って発表することができるようになった」と言ってくれました。みなさんからのそのような言葉は、私にとって本当に嬉しいものでした。

最後に、私の中で心に残っている言葉がもうひとつあります。小学校で休み時間が終わり、3年生のある児童と一緒に教室に戻る途中、その児童が私を見上げて言った言葉です。「アメリカと日本は昔戦争をしていたことを知っているよ。…でも今は友だちだね」

「今年の夏は、冷夏になる」という天気予報を聞き、田んぼの稲の生育を心配しつつも「今年は少し涼しい夏になるのかな」と思っていたところに、例年どおりの暑さと6月12日に発生したひょう被害。大量のえくぼができた車の修理を考えながら、6月下旬の梅雨を過ごしました。

これから梅雨明けを迎え、本格的な「節電の夏」を迎えます。元気に毎日を送るためにも日ごろの体調管理には気をつけたいと思います。(T)

編集後記

京丹波町のシンボル

【町の鳥】
うぐいす



【町の木】
イチョウ



【町の花】
つつじ

